

第1回 北海道型作業システムモデル路網整備計画検討委員会 (概要)

第1回北海道型作業システムモデル路網整備計画検討委員会の概要は以下のとおりです。

1 日時

平成24年7月18日 10:00～15:00

2 会場

北海道森林管理局 3階 大会議室
(札幌市中央区宮の森3条7丁目70番)

3 主な意見

- 集材距離が短くなればコストは下がるということを踏まえ、作業システムというものを考えなくてはならない。
- 運材コストについて諸外国と日本のデータの比較があるが、北海道でのデータ比較をお願いしたい。
- 林業専用道は、道路脇を伐開して乾燥させておくことが必要であり、伐開した場所は材を置いて活用できる。
- 既存の道を少ないコストで林業専用道に変化させトラックが入れる道を整備していく方向も必要。
- 林業専用道だけで作業が可能であれば、それが主役として発展していったよいのではないか。
- 国、道、民間を問わず、コスト削減となり儲かる林業のための道が林業専用道のポリシーでなければならない。
- 森林所有者等からは、林業専用道はコストが割高なため、森林作業道に砂利を入れ幅員もある程度柔軟性を持たせたうえ、10tトラック等が運材するというようなものを作りたいという意見がでている。
- 東北や九州でも地形が緩いところでは、m当たり1万円未満で強い道が出来ている。
- 切土高が高すぎてそこから森林作業道の取り付けが迂回してこなければならないことがある。切土高を抑えた作業のしやすい線形という設計をすれば林業専用道も活用した作業が可能になると思う。
- 全部の法の高さを低くする事は無理なので、使う人達と設計する人達が、事前の打ち合わせを設計図からきめ細かく行っていくことが重要である。
- 緩傾斜地では尾根のあたりまで林業専用道が必要である。